

① ディレクトフォース

ディレクトフォースでは、新日鉄住金へ行きました。新日鉄住金は2012年に新日鉄と住友金属が合併してできた会社で世界屈指の鉄鋼メーカーだそうです。

OBの方々のお話の中で、営業の方が受注の際の重要な要素として「開発できるか」「どこで生産するか」「どこまで顧客をサポートするか」「コストはどれくらいか」などを挙げられていました。これをきいて、仕事を引き受ける以上責任を持って達成しなければならず、そのためにはきちんとした計画や見積もりを立てる思考のプロセスが必要であるのだと思いました。このことを考えると、仕事の手順をしっかりと決めてスムーズにこなせるということは、社会や職場で最も求められることなのではないかと思いました。

また、グループワークではブリヂストンで役員を務めていた方からお話をうかがうことができました。お話の中で最も印象的だったのが、「ブリヂストン美術館を見て、社会に利益を還元している企業がいいと思って入社した。」とおっしゃっていたことです。正直なところ今までの私のイメージでは、大企業で経営に関わる方々は、利益だけを重視しているものだと思っていました。ですが今回のディレクトフォースに来てくださったことからわかるように、社会の役に立ちたいということを思っているということが分かりました。またもう一つ、「会社や組織でトップに立ったほうがいい」ということをとおっしゃっていました。「トップに立つと見える世界が変わる」という理由からだそうです。私はまだトップに立つという経験がなく、ましてや大企業などの大きな組織でトップ層になるというのは雲をつかむような話でした。ですがお話全体から、会社でトップに立った経験のある人は、ものの見方が普通の人よりも何となく違うことを一高校生なりに感じました。

日本経済を背負う大企業の本社の方々のお話をいただけるというめったにない機会です。とても良い経験になりました。

②企業大学訪問

私たちは筑波大学数理物質科学系計算科学センターを訪問しました。こちらの研究所では、スーパーコンピューターを用いた計算によって科学の様々な分野の研究のシミュレーションを行っています。今回お話をいただいた森正夫准教授は、銀河形成に関する研究をされているそうです。



まず、初めに筑波大学が所有するスーパーコンピューター「HA-PACS」を見せていただきました。スーパーコンピューターは、多くのコンピューターをつなげることで計算速度を向上させているようで、そのため発熱量が多く手をかざすと強い熱気を感じられました。また、コンピューターを冷却するために常に送られている空気の凄まじい音が印象的でした。筑波大学では、スーパーコンピューターの開発に力を入れているようで、過去には計算速度で世界第一位のものも開発したこともあるそうです。また、開発だけではなく、その能力を最大限に活用するためにほかの研究施設が共同利用をできるようにしたり、単に計算速度だけにこだわるのではなく、コストをおさえるために省エネ化したりしているそうです。

次に、森准教授から宇宙形成に関するお話をいただきました。太陽系とアンドロメダ銀河の接近で衝突が起きることについての9月号のNEWTONの編集の特集に協力されたそうで、そのことに関する説明をしていただきました。自身の研究内容を語る森准教授の表情から自分の研究に自信をもっていることがうかがえました。

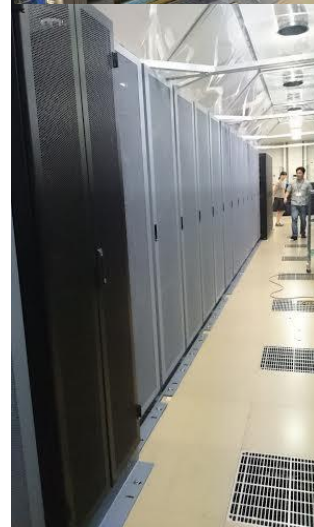


質問時間では 研究者にはどんな人が向いているか一つのことに没頭できる性格の人

普段の研究で心掛けていることは何かデータを偏りなく見ることを心掛けている 日本と海外で感じる違いは何か海外でははっきりとした意見が出しやすく、議論がしやすい といったことを教えてくださいました。また、私の「研究内容はどのように決まるのか」という質問では、留学先で友人の研究を手伝ったのがきっかけで今の研究テーマに興味を持ち、それが今の研究テーマになっている という自身の体験談を話してくださり、また研究テーマは人によっていろいろな決め方があるということも教えていただきました。



今回、森准教授を訪問して、現役の学者のものの見方や体験、そして大学で研究者になるためにはどのような経験を積むのかなど将来科学者になることをめざしている私にとってとても貴重な経験をすることができました。また森准教授の学者としての自身の研究への熱意も感じる事ができました。私も、将来今の夢がかなって研究者になることができたなら森准教授のように没頭できるような良い研究テーマに出会いたいと思いました。



③OB・OG 懇談会

懇談会で話をうかがった OB/OG の方々は話を聞く限りでは高校時代に決して勉強尽くしだけだったのではなく、運動部で熱心に取り組んでいた方や競泳でインターハイまで出場した方、化学オリンピックで予選突破した方など様々な経歴の持ち主ばかりで、今まで東大生に対して部屋にこもって勉強しかしてないイメージを抱いていたのでとても意外に感じました。また、グループで話を聞いた3人のOBのかたは、それぞれ日本のトップに立った思いや感想、大学・高校時代の体験談を話してくださいました。競泳でインターハイに出場したという理一の斉藤自快さんの体験談では、部活を引退するまでは毎日4時間の水泳の練習があり、1日当たり2時間しか勉強時間が取れなかったと聞きました。またその詳細を見せてもらったのですが、隙間の時間を上手に利用していたことが分かりました。今の自分は部活動に充てる時間が少ない割に、ほかの忙しい中でも時間を有効に使う学習時間を確保している運動部の人と比べるとあまり時間を有効に使えてないのではないかと感じました。これから受験までの限られた時間をもっと有効に使おうと思いました。また、勉強以外のことでも熱心に取り組んでいた OB・OG の方々にならって、高校時代に様々な経験を積んでいきたいです。今回の懇談会では、学力やスポーツ、学問でトップに立った経験を持つ現役の大学生と直接お話をいただくきかいをいただき、とても貴重

な経験になりました。

④東京大学見学

まず、東京大学の第一印象として、日本の旧帝大第一号なので古い建物が多く歴史を感じました。また、周辺には博物館や他大学があるためか同じ旧帝大の東北大学とはまた違った雰囲気でした。

東京大学のオープンキャンパスでは、事前段階での用意がわるく予約することすら忘れていて、事前予約が必要な講義に参加することができませんでした。このことは反省したいと思います。ですが当日参加可能なところをいくつか参加・見学することができました。

理学部の見学ツアーに2回参加しました。物理学科や化学科などの研究室を見学したり、教授が自身の研究内容を紹介するのを聞いたりしました。研究室の案内で気づいたのですが、東京大学では留学生が割と多い印象を受けました。8か所くらいの研究室を見学して何人か留学生からも説明を受けました。東北大学のオープンキャンパスでは医学科しか見学していないので何とも言えませんが何となくそう感じました。研究レベルでも国際化という点でも東京大学が日本のトップの大学であることが分かりえました。

また、研究室を案内してくださった学生や教授が自身の研究を紹介するときの雰囲気から日本のそして世界のトップレベルにいる自信のようなものを感じ取りました。ディレクトフォースや筑波大の森准教授、そしてOB・OGの懇談会で感じたように、きちんと結果を出している人は自分に自信を持つことができるのだとわかりました。